

宮古発

JR山田線復旧へ拠点



東日本大震災で被災し、三陸鉄道への移管が決まっているJR山田線の宮古・釜石間の本格復旧に向けて、新たな拠点となる事務所「三陸復興工事区」が宮古に開設されました。

三陸復興工事区は当面4人のスタッフでスタートし、宮古・釜石間55キロの橋梁工事や駅の改築などを担当します。いわて国体が開催される来年秋までに一部を復旧させ、2018年度的全線復旧を目指しています。(10/1 ニュースエコー)

釜石発

味覚フェスティバル

三陸の秋の味覚が存分に楽しめるイベント「釜石まるごと味覚フェスティバル」が、釜石市鈴子町のシープラザ遊で開かれ、大勢の人で賑わいました。水揚げされたばかりのサンマ500匹が炭火で焼かれ振る舞われたほか、今回は「復興支援企画」として和の鉄人・中村孝明さんが釜石産のサバを使った『サバ丼』とトン汁を無料で提供し、人気を集めていました。(10/4 ニュース)



山田発

復興道路でマラソン

復興の基幹事業として整備が進む三陸沿岸道路を会場に、山田町豊間根小学校の生徒がマラソン大会を行いました。豊間根小学校では毎年学校の周りをコースに校内マラソンを実施していますが、今年で創立140周年を迎える記念として復興道路での大会を企画したものです。秋晴れの下、全校児童およそ100人が家族や地元の人たちの声援を受け、それぞれ1キロから2キロを走りました。

(10/4 ニュース)



大船渡発

働く車を調べよう



大船渡市の盛小学校に復興工事の現場で活躍する大型ダンプやクレーン車などが登場し、児童が実際に触れてその役割を学びました。

この出前授業は東京に本社を置く建設機械販売会社が企画したもので、盛小学校の1年生29人がそれぞれの役割について説明を受けたあと、実際に乗り込んでダンプの荷台を上げ下げしたり、クレーンを操作したりしました。子どもたちは普段近づくことのない大きな車両に興味津々で、地元の復興工事の現場で日々活動している建設機械に親しみを持った様子でした。(10/5 ニュースエコー)

宮古発

浄土ヶ浜で献奏

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーが宮古市の浄土ヶ浜を訪れ、震災の犠牲者に演奏をささげました。ウィーン・フィル



は震災発生翌年から被災地での公演を続けていますが、宮古市でのコンサートに先立ち、メンバー11人が浄土ヶ浜を訪れたものです。演奏曲は、メンバーが現地で話を聞いて選んだというシューベルトの「白鳥の歌」第4曲『セレナード』で、美しい調べが浄土ヶ浜の風景に静かにしみこんでいきました。(10/5 ニュースエコー)

陸前高田発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週は大船渡「FMねまらいん」の伊藤こずえさんが、10月17日(土)、18日(日)に大船渡市民体育館で開催される「大船渡市産業まつり」と「さんままつり」について伝えてくれました。産業まつりは、食・工業・産業が集結。さんままつりでは、先着1500匹のさんまが無料で配布されます。伊藤さんのお勧めは「つばきの里」コーナー。つばきを爪にネイルしたり、つばき染めの製品を販売、つばき油の絞り体験も出来るとのこと。 (10/7)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122